



広島県庁若手職員達の対談

県庁に入ったばかりの新人職員を直撃!



—— 入庁前の県庁のイメージと、実際働いてみての印象は？

栗久: 入庁前は、県職員同士で仕事をするのが業務の大半を占めているというイメージを持っていました。しかし、実際は市町やJAの方々など県職員以外の方と連携して仕事をする事が多く、一つの仕事をする際に多くの人が関わっているということを実感しています。

小倉: 少し堅いイメージがあったのですが、実際に働いてみると、穏やかな雰囲気です。困ったことがあっても聞きやすく、程よい緊張感で働いています。また、人と関わる機会や、外に出る機会が思っていたより多く、デスクワークばかりではないこともイメージとは違っていました。

鈴木: 5~10年目辺りから徐々に大事な仕事を任せられるようになるのかな、と思っていました。実際には1年目から大事な仕事を任せられ、人を指導する立場になることもあります。慣れるまでは大変ですが、上司の丁寧なフォローがあって安心して働いています。

久保田: 入庁前は、業務の大半が書類作成で、県庁内の人と一緒に進めていく仕事が多いのかと思っていました。しかし、研究所に配属になったこともあり、実際には、企業の方々との関わりも多くあり、また、ルーティンワークはほとんどなく、日々様々な業務をこなしています。

—— 今後、取り組んでみたいことは？

栗久: 現在は、本庁で働いているため農業者と直接関わる機会はあまりありません。そのため、今後は、農業者の声を直接聞き、農業者の方が抱えている悩みや問題を解決できるような仕事をしたいと考えています。そして、広島県の農業を盛り上げる一員になりたいと考えています。



農林水産局 就農支援課
技師
栗久周史
採用年度：平成31年度



健康福祉局 健康対策課
主事
鈴木結奈
採用年度：平成31年度

鈴木: この1年間、精神科病院の指導監督やアルコール依存症の理解を深めるための普及啓発などを担当して、法律や福祉に興味が出てきたので、もっと勉強したいです。まだ教えてもらってばかりなので、今後は周りの役にも立てるよう、経験を重ねていきたいと思っています。

小倉: 今は上司や先輩に頼ることも多く、何とか業務をこなしていくという感じになっているので、今後は先を見据え、自分なりに目的意識を持ちながら業務に取り組んでいきたいです。また、業務に対してちゃんとした考えや意見があれば反映させてもらえる環境にあるので、自分の考えを持って真摯に取り組んでいきたいです。



土木建築局 住宅課
技師
小倉有加
採用年度：平成31年度



総合技術研究所西部工業技術センター
生産技術アカデミー 研究員
久保田将矢
採用年度：平成31年度

久保田: 早く職場の装置の取扱いに慣れ、研究員として必要な高度な知識や技能を習得することです。今はまだ企業の方々から相談を受けてもすぐに回答できないこともあるので、一日も早く成長して頼られて必要とされる存在になりたいです。

一緒に広島県庁を
盛り上げていきましょう!

HPでは、ここに掲載しきれなかった「志望理由」や「同期・職場の職員との関わり」について、ご紹介しています!

広島県庁若手職員達の対談の完全版は県ホームページで!



広島県職員採用試験情報

検索

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/recruit/wakate>

